

工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



11月1週目

茅葺屋根の解体調査が完了しました。茅葺屋根とは、木や竹などで籠状に組み上げた骨組みの上に、ススキなどの草（＝茅）の束を積み重ね縛り止めて造った屋根です。一口に「茅葺」といっても、使う材料・道具、組み方、結び方など地域や流派により千差万別。旧来の手法を踏襲していくことが原則の文化財建造物の茅葺屋根では、解体調査で元の屋根の仕様をきちんと調査・記録していくことがとても大切です。



※数字は解体の順序
（＝組立の逆の手順）



①瓦巻

蒲鉾形に積んだ茅束の上に、鋼板・杉皮を被せ、その上に瓦を並べて押さえています

②茅葺

ススキなどの草を積み重ね、縛り止めて作った屋根。今回の調査により、神奈川県央域で行われている屋根の葺き方が用いられていることが分かりました

③エツリ竹<ヨコ>

割った竹を使用

④垂木<タテ>

竹を使用（そのまま）

⑦小屋組み

屋根を支える大きな骨組み。屋根の姿が昔は違う形であったと絵図などから推定されていましたが、今回調査でそれらしい痕跡が確認されています

⑥野垂木<タテ>

屋根面の基盤となる材（＝合掌材）に相当する

⑤屋中<ヨコ>

ほとんどが竹、なぜか一部木

※縄の結び目は省略して描いています。

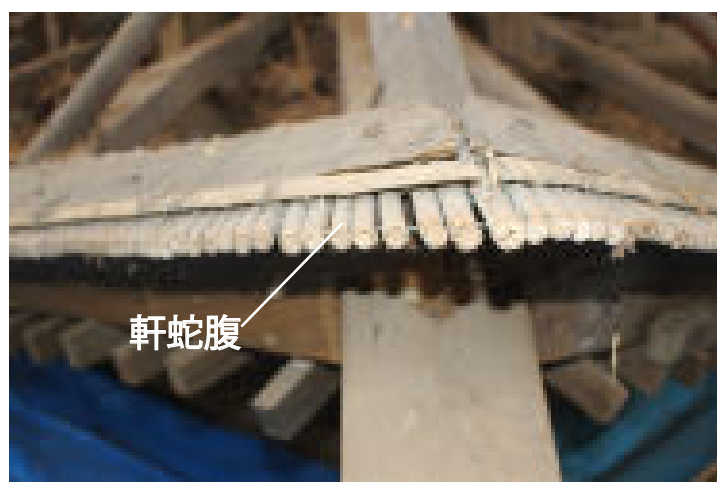
特徴的な仕様



エツリ竹を垂木に絡げるのを一本の縄で行っている



尺八：軒付け茅を固定する役割



軒蛇腹：径の揃った篠竹を銅線で縫い付けている